

川と共に生きる
～かわとまちづくり～

第32回 全国川サミット in旭川

2024
10/18(金)・10/19(土)

会場/OMO7旭川by星野リゾート

報 告 書



130を超える「川のまち」旭川



32nd
RIVER SUMMIT
in ASAHIKAWA

■主催:全国川サミット連絡協議会、旭川市、第32回全国川サミットin旭川実行委員会
■後援:国土交通省北海道開発局、北海道 ■協賛:一般財団法人石狩川振興財団



河川基金
公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。

目次

01 開催概要

全国川サミットとは	03
開催自治体紹介	04
参加自治体紹介	05-11

02 実施内容

1日目 現地視察	12
全国川サミット連絡協議会総会	13-14
国土交通省 講演	15
首長サミット	16-22
歓迎交流会	23
2日目 全国川サミットin旭川	24
開会式	25
事例発表	26-28
記念講演	29-30
サミット式典	31

01 開催概要

開催テーマ 川と共に生きる～かわとまちづくり～

上川アイヌの人々は、「川は山へ遡る生き物」であり、最上流の大雪山は北海道最高峰であることから、最も神々の国に近い所と考えていました。

彼らは、石狩川流域に集落をつくり、川の恵みによる交易で栄えていました。

そして現在、石狩川の流域には46の市町村があり、水系は広大で豊かな自然環境に恵まれ、北海道の社会、経済、文化の基盤となり、重要な食料供給地となっています。

本市は「川のまち」と呼ばれ、石狩川をはじめ、その支流である忠別川、美瑛川、牛朱別川など136本の河川が流れています。

水系の水は、飲料水や農業用水のほか、冬期の流雪溝用水としても活用されています。

また、河川空間は市民の憩いの場となっているほか、北海道内の広域基幹サイクリングルートやハーフマラソン大会のコースとして、冬季には旭川冬まつりの会場や、国際クロスカントリースキー大会である

バーサーロベット・ジャパンのコースとして活用するなど、スポーツやイベント、防災・環境教育の場となっており、私たちは川を活かし、川に活動して生活しています。

本市では、川の新たな観光価値と、市民の憩いの場の創出により、中心市街地や水辺空間への観光客誘導や市民の回帰を図ることで、駅周辺を含む周辺地域の活性化を目指し、旭川駅周辺かわまちづくり計画を策定いたしました。

第32回全国川サミットin旭川の開催を機に、「かわ」と「まち」とそれに関わる人々の魅力を発信し、川への愛着を育んでいくような有意義なサミットとなるように願っています。

結びに、今回の開催にあたり、御支援・御協力いただきました関係者並びに御参加いただきました皆様に感謝申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

旭川市長 今津 寛介

全国川サミットとは

全国川サミットとは一級河川と同じ名称または一級河川の流域にある全国の自治体が「全国川サミット連絡協議会」を組織し、川がもたらす恵みや人々との関わりを活かしながら、川と共存するまちづくりを共に進めることを目的に、加盟自治体が持ち回りで開催しているものです。

主催/全国川サミット連絡協議会、旭川市、第32回全国川サミットin旭川実行委員会

後援/国土交通省北海道開発局、北海道

協賛/一般財団法人石狩川振興財団

全国川サミット開催のあゆみ

回数	開催地	開催テーマ	回数	開催地	開催テーマ
第1回	富山県庄川町	川は未来に夢はこぶ	第17回	群馬県みなかみ町	川を活かしたまちづくり・川と交流
第2回	北海道鶴川町	きらめきリバータウン ～川と人の未来を求めて～	第18回	秋田県横手市	川がはぐくむ「ひと・まち・こころ」 ～山と川のあるまちから～
第3回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川作り ～川は命、未来の子どもたちへ引き継ごう～	第19回	兵庫県加古川市	川はともだち ～未来につなぐメッセージ～
第4回	兵庫県加古川市	川は友だち ～ひと・まち・川 ちょっと素敵なお物語～	第20回	新潟県長岡市	絆 ～川は流れ、地域をつなぐ～
第5回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう!私たち川家族	第21回	茨城県取手市	川とつながる私たち ～水・命・文化・そして夢と未来～
第6回	秋田県雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」	第22回	長野県川上村	流域文化に学ぶ
第7回	宮崎県北川町	重い出いっぱい不思議がいっぱい ～川を彩る螢の光がこどもたちへの贈り物～	第23回	千葉県香取市	歴史から学ぶ川と私たちの暮らし
第8回	愛媛県肱川町	21世紀へのメッセージ ～それは川から始まる～	第24回	新潟県新潟市	川が創った大地 ～水と土が紡ぐ歴史～
第9回	三重県宮川村	川に愛される人になりたい ～ちょっと素敵な川家族～	第25回	福島県喜多方市	上流は下流を想い、下流は上流を想う ～私たちの生活を支える大切な川～
第10回	兵庫県揖保川	歴史に学び明日を見つめる川づくり ～ともに創ろう 川の未来 水の未来～	第26回	高知県四万十市	川とともに生きるまち
第11回	東京都江戸川区	暮らしに溶け込む、にぎわい川 ～都市の中の川を考える～	第27回	広島県三次市	地域の誇れる川を未来
第12回	岡山県加茂川町	森と川が伝えるふるさとからのメッセージ ～水は生命の源～	第28回	宮崎県宮崎市	母なる川とともに
第13回	奈良県十津川村	みんなで考えよう!河川環境	第29回	岩手県一関市	黄金川咲く北上川 ～悠久の歴史と未来～
第14回	兵庫県猪名川町	清流とともに暮らす ～ええやん猪名川50年～	第30回	愛知県岡崎市	河川空間とまち空間の融合 ～川の歴史の継承と新たな交流を目指して～
第15回	岐阜県揖斐川町	川面に暮らしあとともに生きる	第31回	滋賀県守山市	琵琶湖(赤野井湾)の再生 ～川と人と未来をつなぐ～
第16回	東京都江戸川区	川の恵みとその脅威	第32回	北海道旭川市	川と共に生きる ～かわとまちづくり～

滋賀県 もりやまし 守山市



人口 85,731人(令和6年4月1日現在)

世帯数 34,065世帯(同上)

面積 55.74km²

市町村の木 楠(くすのき)

市町村の花 近江妙蓮(おうみみょうれん)

市長 森中 高史



主な祭り・行事など

- 火祭り(勝部神社・住吉神社)
- すじ切り祭り・長刀まつり
- 野洲川冒険大会・もりやま夏まつり
- もりやまいち

特産品 琵琶湖の魚、鮎、鰈、
もりやまメロン、バラ

守山市は、琵琶湖の東側に位置し、琵琶湖や比良・比叡の山並みを望む素晴らしい景観があります。琵琶湖や野洲川の豊かな恵みに支えられたまちで、「人・自然・びわ湖、みんなが幸せなサステナブルなまちづくり」を進めています。また、琵琶湖を自転車で一周する「ピワーチ」の拠点であり、サイクリストの聖地としても有名になりました。琵琶湖・赤井野湾では、地元漁協や環境保護団体、自治会とともに琵琶湖を愛する市民ひとりひとりが、国、県、市と連携し、粘り強く取り組みを実施した結果、かつてのような豊かな自然環境の再生や生物多様性の保全が図られ、淡水真珠の復活や春先には琵琶湖固有種であるホンモノコの産卵が見られるようになりました。



びわ湖を望む景観とBIWAKOモニュメント



守山市のシンボル「ほたる」

愛媛県 おおずし 大洲市



人口 39,534人(令和6年4月1日現在)

世帯数 19,605世帯(同上)

面積 432.12km²

市町村の木 ソツジ

市町村の花 ソツジ

主な祭り・行事など

- 觀光さくらまつり・鹿野川しゃくなげまつり
- 富士山まつり・さかいの大洲川まつり花火大会
- ほたるまつり・さかいの大洲川まつり花火大会
- カヌースーリング駅伝大会・山鳥坂若狭神楽
- いもたき・リトルドリカ・もじじまつり
- 大洲まつり・白滝さくらまつり

特産品 乾いたトマト、すいか、
きゅうり、白菜、栗、キウイ、
紅マシダ、みく、カララ、
はも、志ぐれ、いもたき

大洲市は、市内中心部を一級河川「肱川」が流れる愛媛県西南部の都市です。古くから氾濫を繰り返す暴れ川としての側面に悩まされてきた一方、その豊かな水量と緩やかな肱川が育んだ豊かな土壌の恵みを受け、「水郷大洲」と呼ばれる景観や文化、産業を育んできました。春の「ソツジ」に夏は「うかい」、秋は「いもたき」、冬の「肱川あらし」。そして、河畔にたたずむ大洲城や国の重要文化財である臥龍山荘をはじめ、多くの史跡が残る旧市街地。いずれも、肱川が育んできた大洲市を代表する歴史や文化、伝統、自然です。中でも、歴史的資源を活用した観光まちづくりは、2023年に「ザ・グリーンディスティネーションズ・ストーリーアワード」の「文化・伝統保全」部門において世界1位を受賞しました。



雲海が奔流し川から海へ下る「肱川あらし」



国の重要文化財・臥龍山荘(庭園は名勝)

兵庫県 かこがわし 加古川市



人口 255,533人(令和6年4月1日現在)

世帯数 110,132世帯(同上)

面積 138.48km²

市町村の木 くろまつ

市町村の花 つつじ

特産品 加古川和牛、
加古川かつらし、
靴下、建具

加古川市は、兵庫県南部の瀬戸内海沿岸に位置し、一級河川「加古川」が貫流する、豊かな自然に囲まれた温暖な地域です。市民の憩いのとなっている河川敷では、加古川市民レガッタ、加古川ツーデーマーチ、加古川マラソンなど、一年を通じてスポーツやレクリエーションが行われ、市民の方に親しまれています。令和4年からは、河川敷の賑わい創出を目的とした「加古川かわまちづくり」イベントも展開しており、キッチンカーの出店や、音楽フェスティバル等により、活気ある活動が繰り広げられています。また、本市ゆかりのプロ棋士が7名活躍中であることから「棋士のまち加古川」を掲げ、全国に発信しています。



カヌーイベント



加古川かわまちづくり河川敷イベント

北海道 ふかがわし 深川市



人口 18,445人(令和6年4月1日現在)

世帯数 10,234世帯(同上)

面積 529.42km²

市町村の木 シラカバ

市町村の花 キク

特産品 お米、そば、リング、
長いも、ウロコブランゴ、
ふかがわシートパンなど

北海道のほぼ中央に位置する穏やかな田園都市です。基幹産業は農業であり、石狩川と雨竜川の流域に広がる肥沃な土壌と恵まれた気象条件のもと、道内における良食味米の主産地として高い評価を受けており、全道第2位の収穫量を誇っています。また、作付面積が全国第2位のソバや、サクランボやリンゴをはじめとする果樹などの農産物の生産も豊富に行われています。石狩川河川敷には、パークゴルフ場や野球場、サッカー場が整備されており、多くの市民が利用しています。また、毎年7月には花火大会が開催され、今年は約7,000人の観客が訪れました。近年は、陸上やバレーボールなど多くのアスリートがスポーツ合宿で道内外から来訪しております。また、冬の豪雪を逆手に取った雪の利活用の取り組みや、道内屈指の化石の産出地、そして米や加工用トマトといった農産物など、誇れるものが沢山あります。



夏季になると陸上選手が合宿に訪れる。
田園風景を見ながら走れるロードコースは好評。



全道第2位の収穫量を誇る深川市の田園風景。
後ろに立つ「深川マイナー」には、
最大45万俵もの深川米のものが貯蔵されている。

北海道 ぬまたちょう 沼田町



人口 2,794人(令和6年4月1日現在)

世帯数 1,422世帯(同上)

面積 283.35km²

市町村の木 イチイ

市町村の花 つつじ

町長 横山 茂

主な祭り・行事など

- 夜高あんどん祭り・ほたる祭り
- ほたるの里夏のSNOWマニアック
- 舞け雪のまちエス・そらの自然学校

完熟トマトジュース、
完熟トマトケチャップ、
雪溶け湯(雪水)、
雪中庭園(雪中花園)、
雪中推進(せっとうしつけん)

雪中推進(せっとうしつけん)



萌の丘から町内を一望



夜高あんどん祭り

北海道 ほろかないちょう 幌加内町



人口 1,229人(令和6年4月1日現在)

世帯数 677世帯(同上)

面積 767km²

市町村の木 ナナカマド

市町村の花 かたくり

主な祭り・行事など

- 政和アートフェス
- 嚴寒祭り・幌加内町新そば祭り
- 産業祭
- 天使の囁き記念日ライトアップ

特産品 乾いたトマト、すいか、
きゅうり、白菜、栗、キウイ、
紅マシダ、みく、カララ、
はも、志ぐれ、いもたき

幌加内町は、上川管内西部に位置し東西24km、南北63kmと南北に長い形をしています。幌加内町には3つの日本一があり、一つ目は「そば畠の面積・収穫量日本一」を誇り、7月中旬から8月中旬にかけて3,400haを超えるそば畠に一面真っ白な花が咲きほこり、そばロードが出現します。二つ目は「日本最大の人造湖朱鞠内湖」湖の面積は23.7km、周囲40km、水深40mあり1974年には道立自然公園に指定され、幻の魚「イトウ」が住む神秘の湖と呼ばれる訪れる人を魅了しています。三つ目は「日本最寒記録-41.2°」を記録した町。昭和53年2月17日、幌加内町の母子里(もしり)地区で記録しました。残念なら気象庁の公式記録から外れていたため、旭川市の記録が公式記録となっていますが、実質的には幌加内町母子里の-41.2°が最低気温となっています。



朱鞠内湖



夕照の蕎麦畠

北海道 ぴっぷちょう 比布町



人口 3,446人(令和6年4月1日現在)

世帯数 1,761世帯(同上)

面積 86.90km²

市町村の木 ナナカマド

市町村の花 スイセン

主な祭り・行事など

- いちご狩り(6月下旬~7月上旬)
- びっぷ駅マリシェ(9月中旬)
- びっぷスキー場ナイトイベント(1月下旬)

いちご、ゆめびりか(比布町発祥)、千本芋、オクラ、小ねぎ醤油、がっぽの健郎、地酒「必富」、北海道比布町のこっておき濃厚たまごかけごはんセット

比布町は、石狩川、比布川、蘭留川、比布ウッペツ川などの流域一帯に上川地方有数の米生産地が形成され、道産米の最高峰とされる「ゆめびりか」は町内の上川農業試験場から生まれました。本町から眺める田園風景や大雪山連峰の展望が美しく「世界一大雪山がきれいに見える町」や、大正時代から始まっていたいご栽培は、100年以上の歴史があり、「いちごとスキーのまち」としても知られています。さらに、びっぷスキー場をはじめ、野球場や室内運動場など、一年を通じてスポーツが楽しめるほか季節に応じたイベントも充実しています。また、比布駅やスキー場周辺の温泉・宿泊施設をはじめ、キャンプ場やパークゴルフ場など、関係人口創出を目的とした通年観光も推進しています。



大雪バーキングエリア展望広場



びっぷいちご

北海道 たかすちょう 鷹栖町



人口 6,530人(令和6年4月1日現在)

世帯数 3,098世帯(同上)

面積 139.42km²

市町村の木 ナナカマド

市町村の花 マリーゴールド

主な祭り・行事など

- さくらフェスタ
- 熱夏フェスタ

トマトジュース「オカミの桃」、
お米、キュウリ、トマト



鷹栖町の風景



さくらフェスタ

北海道

**かみかわちょう
上川町**

人口 3,124人(令和6年4月1日現在)
世帯数 1,887世帯(同上)
面積 1049.47km²
市町村の木 アカエゾマツ
市町村の花 えぞつづじ

町長 西木 光英

主な祭り・行事など
・層雲峠温泉氷湯まつり
・層雲峠温泉峡谷火まつり
・上川町ふる里まつり

特産品 清酒(神川・上川大雪)、大雪高原牛、ニジマス・ヤマメ、ラーメン(日本一の会)、そば、大根

上川町は、北海道のほぼ中央に広がる山岳自然公園「大雪山国立公園」の北方部に位置し、11の市町に接しています。今もなお原始の面影を残す大雪山連峰の自然を背景に、層雲峠温泉・高原温泉・愛山渓温泉の3つの温泉郷を有しており、中でも層雲峠の渓谷に位置する層雲峠温泉は北海道有数の規模を誇る温泉街を形成しており、大雪山国立公園への玄関口ともなっています。北海道第一の河川、石狩川の清流にも恵まれた自然に包まれ、四季折々の大雪山を一望できる上川町は、大雪・森のガーデンや登山、ラフティング、温泉などの豊かな自然環境を活用した「北の山岳リゾートタウン」を目指したまちづくりを進めています。

層雲峠温泉街 層雲峠温泉氷湯まつり

北海道

**とうまちょう
当麻町**

人口 6,118人(令和6年4月1日現在)
世帯数 3,046世帯(同上)
面積 204.90km²
市町村の木 イチイ
市町村の花 菊

町長 村椿 哲朗

主な祭り・行事など
・堆龍まつり
・生涯学習フェスティバル

特産品 米、でんすけいか、きゅうり、トマト、薔薇、菊、当麻鐘乳洞熟成日本酒「龍乃泉」、カーネーション

当麻町は自然の恵みを生かした「食育 木育 花育」のまちづくりを進めています。食べ物としていただく命、生活の中で欠かすことのできない樹木の命、私たちの心を和ませてくれる花の命、私たちはその命をいただいて生きていることを認識し、心豊かに生きていくことを目指すのです。大きな商業施設や便利なインフラがあるわけではありません。しかし広大な自然には私たちが豊かに生きていくための糧が全てそろっています。「何もない」ではなく「全部ある」。当麻町は「全部ある当麻町」というキャッチフレーズを掲げ移住定住・新規開業・観光・農林業促進につなげています。そして先人のたゆまぬ努力により築き上げた大切な自然という資源を次代へ残す活動を進めています。

里山「当麻山」展望台から望むまちなみ 北海道指定天然記念物「当麻鍾乳洞」

北海道

**ひがしかぐらちょう
東神楽町**

人口 9,770人(令和6年4月1日現在)
世帯数 4,381世帯(同上)
面積 68.50km²
市町村の木 いちい
市町村の花 つづじ

町長 山本 遼

主な祭り・行事など
・ひがしかぐら花まつり
・ひがしかぐらバーベキューマラソン
・フラワーフェスタ
・ひがしかぐらワインフェスティバル

特産品 米、グリーンアスパラ、みつ葉、イチゴ、家具

東神楽町は、旭川市に隣接する面積68.50平方キロメートル、人口約10,000人の町です。町を含む上川盆地一帯は北海道の米の主産地として道内外に知られ、米や野菜を中心とした農業が盛んです。平成元年から始まった大規模宅地開発により、平成2年に約5,700人だった本町の人口が平成12年5月に8,000人、平成25年10月には10,000人と年々増加し、平成27年国勢調査速報値では人口増加率10.1%と全道1位の増加率となりました。また、町内には道北の空の玄関である旭川空港があり、インフラ整備も着実に進んでいます。このほかにも、東神楽町は「花のまち」として全国的に知られ、平成12年の全国花のまちづくりコンクールでは最優秀賞の建設大臣賞を受賞。平成13年にはカナダで開催された国際コンクールに参加するなど、花を生かした美しい環境整備に力を入れています。

複合施設はなのわ ひがしかぐら花まつりの歌謡ステージ

北海道

**たきかわし
滝川市**

人口 36,811人(令和6年4月1日現在)
世帯数 20,632世帯(同上)
面積 115.90km²
市町村の木 ブラタナス
市町村の花 ツツジ、コスモス

市長 前田 康吉

主な祭り・行事など
・たきかわ菜の花まつり
・サマースカイフェスタ
・そらういちワインFesta
・クラフトビールフェスティバル
・たきかわ紙袋ランタンフェスティバル

味付けジンギスカン、合鴨肉、米、タマネギ、菜の花(ななね油)雪割ばな

滝川市は、北海道のほぼ中央部、札幌市と旭川市の間に位置し、古くから交通の要衝として栄えてきた商業のまちです。肥沃な大地と豊かな自然に恵まれた地域で、米をはじめ農産物が数多く生産されています。また日本有数の作付け面積を誇る菜の花畑は、開花時には菜の花の黄色いじゅうたんが一面に広がる美しい景観が魅力で見頃に合わせて開催される「たきかわ菜の花まつり」には、国内外から多くの観光客が訪れます。また、石狩川と空知川に挟まれ河川敷を利用した滑空場の「たきかわスカイパーク」は上昇気流が発生しやすく、グライダーの体験搭乗が常時可能な日本唯一の施設であり、爱好者はもちろんのこと、多くの観光客の方々に体験型観光として楽しめています。

グライダーと石狩川 菜の花畑

北海道

**ほくりゅうちょう
北竜町**

人口 1,624人(令和6年4月1日現在)
世帯数 788世帯(同上)
面積 158.7km²
市町村の木 イチイ
市町村の花 ひまわり

町長 佐々木 康宏

主な祭り・行事など
・ひまわりまつり

特産品 米をはじめとした農産物、黒千石大豆、ひまわり油

北竜町は北海道のやや中央に位置し、空知管内の北部に位置しています。国道275号線が南北に、国道233号線と道道94号線が東西に走っており、車で札幌まで2時間、旭川まで1時間という立地になっています。町内には石狩川の支流である雨竜川が通っており、雨竜川沿いの肥沃な平坦部は農業に適した土地になっています。水稻を始めとした農業のまちであり、耕地の9割弱を占める水田で栽培される「ひまわりライス」などの農産物が町の名産品となっています。昭和55年よりひまわりをシンボルとしたまちづくりを行っており、7月下旬から約1ヶ月間に渡り行われる「ひまわりまつり」には約20万人が訪れる北海道の夏を彩るイベントとして親しまれています。

道の駅「サンフラワーパーク北竜」 ひまわりの里

北海道

**いしかりし
石狩市**

人口 57,480人(令和6年4月1日現在)
世帯数 28,643世帯(同上)
面積 722.33km²
市町村の木 カシワ
市町村の花 ハマナス

町長 加藤 龍幸

主な祭り・行事など
・三大秋祭り(石狩さけまつり、厚田ふるさとあきあし祭り、浜益ふるさと祭り)
・石狩市民スポーツまつり

特産品 米、小麦、鮭、ニシン、ルッソ、石狩鍋、望来豚 浜益和牛など

石狩市は札幌市の北側に隣接し、石狩湾に臨む水に恵まれた環境にあります。平成8年に市政施行し、平成17年10月に厚田村・浜益村と合併しました。厚田村には、道の駅石狩「いろいろど厚田」や「恋人の聖地」などがあり、厚田港朝市には海の幸を求めて朝から多くの観光客が訪れます。自然豊かな浜益区には、毎年多くの登山客が訪れる「黄金山」や「浜益温泉」、果物狩りができる果樹園などがあります。東西に28.88キロ、南北67.04キロに及ぶ地形の石狩市は、海の幸や野菜、果樹など、食に恵まれたまちです。また、石狩市には全国2例目となる大規模洋上風力発電所など、多様な電源が集積しており、再エネを活用する企業の誘致に取り組んでいます。工業団地のうち100haには、「REゾーン(地域産再エネの供給を目指す区域)」を設けており、データセンターの集積を進めています。

洋上風力発電所(石狩湾新港) 道の駅石狩「いろいろど厚田」

北海道

**びえいちょう
美瑛町**

人口 9,341人(令和6年4月1日現在)
世帯数 4,791世帯(同上)
面積 676.78km²
市町村の木 シラカバ
市町村の花 スズラン

町長 角和 浩幸

主な祭り・行事など
・丘のまちびいのヘルシーマラソン
・びえいどかと農業まつり
・丘のまちびいセンチュリーライド
・丘のまちびい宮原国際スキー場

カレーランド、美瑛豚 美瑛ゆめからベーグル、クリーパスラム(ラムスラム)、トト、美瑛米、美瑛サイダー、びえいのラスク

美瑛町は、北海道のほぼ中央に位置し、十勝岳連峰の山麓に広がるまちです。十勝岳連峰の裾野に広がる丘陵地は、だらかな起伏が幾重にも折り重なり、日々の農業の営みと雄大で緑豊かな自然環境が「丘のまち」と呼ばれる四季折々に美しい農村景観を創り出しています。本町が持つ景観や環境・文化を守り、将来にわたって美しい地域を守り続けることで、観光的附加価値を高め地域資源の保護と地域経済の発展を図る「日本で最も美しい村」としてまちづくりを進めています。また、近年では、自然と人の営みによって育まれた地域の魅力を多くの方に伝える「十勝岳ジオパーク」にこれまでの活動が評価を受け、「日本ジオパーク」に認定されるとともに、観光分野の国連専門機関である世界観光機関(UNWTO)が推進するベストツーリズム・リベッジに認定され、持続可能な観光の実現に取り組んでいます。

白金青い池 市街地・本通り

北海道

**すながわし
砂川市**

人口 15,372人(令和6年4月1日現在)
世帯数 8,465世帯(同上)
面積 78.68km²
市町村の木 ななかもど
市町村の花 すずらん

市長 飯澤 明彦

主な祭り・行事など
・子ども国コスティバル・すながわねと花の祭典
・たきかわ菜の花まつり・砂川納涼花火大会
・T-House・石狩川下雪祭・防災コスティバル
・すながわ市民まつり・ななぞら大稚祭
・北海道義士祭

スイーツ、革製品、化粧品、トマト、玉ねぎ

砂川市は、札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、自然を生かしながら家族で楽しめる都市公園「北海道子どもの国」や多彩なウォーターレジャーが楽しめる石狩川の洪水分調整機能も兼ね備えた遊水地「砂川オアシスパーク」を有する水と緑に包まれた自然豊かなまちです。特に「砂川オアシスパーク」は、「砂川地区かわまちづくり」を活かして、春から秋にかけては、アウトドアスポーツ等のアクティビティやイベントの開催、冬にはワカサギ釣りの人気スポットとして親しまれ、多くの方に利活用されています。また、南北に縦貫する国道12号を中心に菓子店やカフェが約20店舗点在する「すながわスイートロード」は、北海道内のみならず今や全国的な人気となっており、大変多くの方にお越し頂いております。

砂川オアシスパーク(夏・水上バイク) 砂川オアシスパーク(冬・ワカサギ釣り)

北海道

**うたしないし
歌志内市**

人口 2,649人(令和6年4月1日現在)
世帯数 1,644世帯(同上)
面積 55.95km²
市町村の木 ナナカマド
市町村の花 ツツジ

特産品 なんこ鍋、ワイン、観賞石

市長 柴田一孔

主な祭り・行事など
●うたしない市民祭り
●なまはげ祭り

歌志内市は、北海道のはば中央、石狩平野の東北端の山麓地帯に位置します。周囲を緑あふれる山並みに囲まれ、狭い山間を山岳地帯に源を発するベンケウタシナイ川が東西に貫流し、この両岸に続く平坦地と斜面が歌志内市のたたずまいです。面積55.95km²の歌志内市は、その75%を森林が占め、ベンケ山を主峰とする東部と南部は、他の600m前後の山々を境として芦別市に接し、北部は赤平山、かもい岳を境として赤平市に接しています。また、西南部から西部は、次第に拓けて砂川市と上砂川町と接しています。美しい秀峰や自然に恵まれ、めぐる季節ごとに表情を変えて、住む人、訪れる人々を魅了する緑の大地です。



北海道

**つきがたちょう
月形町**

人口 2,791人(令和6年4月1日現在)
世帯数 1,566世帯(同上)
面積 150.40km²
市町村の木 イチイ
市町村の花 菊

特産品 メロン(赤肉北の女王・青肉月季)、スイカ(ダイナマイトイカ)、ミニトマト、花き(カーネーション他)

市長 上坂 隆一

主な祭り・行事など
●つきがた夏まつり

月形町は石狩川下流域に位置し、樺戸連山の麓の石狩平野で豊かな田園風景が広がる町です。月形町には石狩川の河道改修のためにできた、三日月湖を活用した親水公園「皆楽公園」があり、水辺に訪れる野鳥の観察や週末には釣りやキャンプを楽しむ人が訪れるレジャースポットとなっています。このほか、月形町に設置されている国内最大規模の農業用取水堰(石狩川頭首工)から分水して農業用水路(篠津運河)を経由して供給される用水を利用して、水田や耕作作物が盛んにおこなわれており、米、メロン、スイカなどのフルーツやカーネーションなどの花き栽培など多種多様な農作物が月形町の特産品として生産されています。



北海道

**うらうすちょう
浦臼町**

人口 1,587人(令和6年4月1日現在)
世帯数 770世帯(同上)
面積 101.83km²
市町村の木 サクラ
市町村の花 ツツジ

特産品 米、メロン、ワイン、ジビエ(エゾシカ肉)、ぼたんそば、こんにゃく、マンゴー、トマトジュース

町長 川畑 智昭

主な祭り・行事など
●うらうす夏の味覚まつり
●うらうす友だちマラニック
●鶴沼ワインフェス

浦臼町は、北海道の中西部、札幌市と旭川市の2大都市間のほぼ中間に位置し、樺戸連山と雄大な石狩川に挟まれ、いくつもの川と沼が点在するほぼ平坦な地形で、農業に最適な環境です。昔ながらの純農村で、米を中心メロンやぼたんそばなどを生産し、ワイン用ぶどうは日本有数の作付け面積を誇っています。そのぶどうを使ったワインやジビエ、そしてトマトジュース等が町の特産品となっています。また、浦臼町は坂本龍馬ゆかりの地となっています。龍馬の甥にあたる坂本直寛や、龍馬の養嗣子坂本直の妻留及び長男坂本直衛が浦臼町に移住をしており、蝦夷地開拓を夢見ていた龍馬の意思を継ぎ浦臼町の開拓に尽力しております。



北海道

**みなみふらのちょう
南富良野町**

人口 2,269人(令和6年4月1日現在)
世帯数 1,307世帯(同上)
面積 665.54km²
市町村の木 クルミ
市町村の花 ヒナゲシ

特産品 にんじん、じゃがいも、とうもろこし、ミニトマト、メロン、そば、もち米

町長 高橋 秀樹

主な祭り・行事など
●かなやま湖湖水まつり
●道の駅南ふらの感謝祭
●かなやま湖花火大会

南富良野町は空知川、幾寅川、ユクトラシュベツ川の3つの河川があり、空知川は6つの集落からなる町を東西に貫流しています。空知川ではラフティング、空知川最上流部のダムである金山ダムによりできたかなやま湖ではカヌー、わかさぎ釣り等、川を利用したアクティビティも盛んです。令和5年8月にはかわまちづくり計画が認定され、平時は地域活性化や観光振興に寄与するMIZBEステーションの工事がはじまり、完成後は河川を利用したアクティビティ等のさらなる活性化を見込んでいます。北海道のはば中央にあり、十勝方面と旭川方面を繋ぐ道路があるため交通量が多く、道の駅の物産センターや複合商業施設、公園には子供連れの家族やツーリングの方々が訪れてています。また、かなやま湖畔のキャンプ場にもラベンダー園やカヌー体験、かなやま湖湖水まつりの花火などたくさんの方々に訪れていただき大変賑わっています。



北海道

**ふらのし
富良野市**

人口 19,639人(令和6年4月1日現在)
世帯数 10,496世帯(同上)
面積 600.71km²
市町村の木 ホオノキ、イチイ
市町村の花 エゾムラサキソツジ

特産品 五色、メロン、米、西瓜、ラガス、ほなれん、ホタル、ふらののチーズ、オムカレ

市長 北 猛俊

主な祭り・行事など
●グレードアース富良野ライド
●北海へそ祭り・ワインブドウ祭り
●へそマラソン
●ふらの powder フェスティバル

富良野市は、北海道の中に位置し、周囲を山に囲まれた盆地地形にあります。総面積は600.71km²、東方に十勝岳連峰の富良野岳(1,912m)、西方に夕張山地の芦別岳(1,726m)がそびえ、南方には東京大学演習林(227.16km²)があり、市域の約7割を山林が占める自然豊かな環境です。旭川地方気象台の令和5年観測データでは、最高気温36.3度、最低気温-31.8度を記録しており、盆地特有の気候がもたらす「はっきりとした四季」が特徴の地域であり、四季折々の美しい風景やグルメを求めて多くの観光客が当地を訪れており、夏はラベンダーを中心とした花や景観観光、冬は富良野スキー場でのアクティビティを目的とした多くのお客様で賑わっております。



北海道

**つきがたちょう
月形町**

人口 2,791人(令和6年4月1日現在)
世帯数 1,566世帯(同上)
面積 150.40km²
市町村の木 イチイ
市町村の花 菊

特産品 メロン(赤肉北の女王・青肉月季)、スイカ(ダイナマイトイカ)、ミニトマト、花き(カーネーション他)

市長 上坂 隆一

主な祭り・行事など
●つきがた夏まつり

月形町は石狩川下流域に位置し、樺戸連山の麓の石狩平野で豊かな田園風景が広がる町です。月形町には石狩川の河道改修のためにできた、三日月湖を活用した親水公園「皆楽公園」があり、水辺に訪れる野鳥の観察や週末には釣りやキャンプを楽しむ人が訪れるレジャースポットとなっています。このほか、月形町に設置されている国内最大規模の農業用取水堰(石狩川頭首工)から分水して農業用水路(篠津運河)を経由して供給される用水を利用して、水田や耕作作物が盛んにおこなわれており、米、メロン、スイカなどのフルーツやカーネーションなどの花き栽培など多種多様な農作物が月形町の特産品として生産されています。



北海道

**びばいし
美唄市**

人口 18,802人(令和6年4月1日現在)
世帯数 10,754世帯(同上)
面積 277.69km²
市町村の木 ボプラ
市町村の花 ツツジ

特産品 おぼろづき、ななつぼし、あめりか、グリーンアスパラガス、ミニトマト、ハスカッブ、明照焼き、中村のとりめし、米粉商品

市長 桜井 恒

主な祭り・行事など
●びばい重ね祝まつり
●びばい雪まつり
●びばい桜まつり
●美唄スーランドフェスティバル

美唄の由来は、アイヌ語「ビバオイ(沼の貝の多いところ)」。石狩平野に位置し、札幌市と旭川市の中間に広がる道内有数の穀倉地帯です。市内の中央には、日本一長い直線道路(29.2Km)としても有名な国道12号と道央自動車道、JR函館本線が南北に貫貫しており、交通の要衝であります。東側には2019年5月に日本遺産に認定された「炭鉄港」の構成遺産が点在し、西側には、北海道最大の一級河川石狩川が流れるとともに、田園地帯が広がり、春と秋には国の天然記念物である「マガツ」6~8万羽がラムサール条約登録湿地「宮島沼」へ飛来します。また、美唄市出身の世界的彫刻家である安田侃氏の作品を楽しめる「安田侃彫刻美術館」、アルティビアッチャ美唄やソメイヨシノなど約2,000本もの桜が広がる「東明公園」をはじめとした観光スポットがあります。



北海道

**いわみざわし
岩見沢市**

人口 74,930人(令和6年4月1日現在)
世帯数 40,571世帯(同上)
面積 481.02km²
市町村の木 こぶし
市町村の花 バラ

特産品 ワイン、米、ななつぼし、キタカオリ小麥のパン、こぶ志焼、たまねぎ、白菜

市長 松野 哲

主な祭り・行事など
●いわみざわ花まつり
●きたむか田舎フェスティバル
●くりわ農産祭
●いわみざわ餅まつり
●IWAMIZAWAドカラ雪まつり

岩見沢市は北海道の中西部、空知地方において広大な石狩平野の中央に位置しており、広大で肥沃な土地と、石狩川水系の豊富な水を生かし、稲作を中心に畑作、野菜、果樹、花卉などの幅広い農産物を生産しており、道内有数の食料供給地域として農業を展開しております。また、北海道の空の玄関・新千歳空港や札幌市からは車で約1時間。札幌や旭川などの主要都市とはJR、高速道路でつながり交通アクセスも抜群です。広大な田園風景や緑豊かな自然が見られる一方、JR岩見沢駅を中心に市街地が形成されております。道内屈指の豪雪地帯として知られ、万全の除雪体制で冬の生活を支える一方、雪を利用したワインタースポーツも盛んで、スキー場、遊園地、温泉施設、ワイナリー、ログホテルメープルロッジのサウナなどアクティビティも充実しております。



北海道

**しんしのつむら
新篠津村**

人口 2,770人(令和6年4月1日現在)
世帯数 1,352世帯(同上)
面積 78.04km²
市町村の木 ナナカマド
市町村の花 ハナショウブ

特産品 米、どぶろく、純米酒「大法螺」(地酒)、有機干し甘いも、田舎風味噌、キムチ、花き、ミニトマトなど

村長 石塚 隆

主な祭り・行事など
●しんしの青空まつり
●天灯(ランタン)祭り

新篠津村は、石狩管内の東端に位置し、360度地平線と美しい空に囲まれた田園風景の広がる、道内でも有数の「米の村」です。基幹産業が農業である新篠津村ですが、石狩川の旧河川であるしのつ湖周辺にはゴルフ場、キャンプ場、温泉、宿泊施設とともに、道の駅、販賣店場を集積し、札幌からも近く気軽に訪れるレジャースポットとして人気です。春から秋の週末には家族連れのキャンプやサイクリング、冬はしのつ湖の氷上ワカサギ釣りなど、一年を通じて特色のある観光体験ができます。また、令和5年10月に口径50センチの大型望遠鏡を備えた「たっぷり天文台」(しんしのつ天文台)をオープン。観光ブランドコンセプトを【空のまち新篠津村】として、360度すべてを見渡せる平らな地形を活かした星空観測体験会や石狩川河川敷の滑空場でグライダーの体験搭乗、さらに今年で45回を迎えた「青空まつり」とともに、冬の風物詩ともなる「天灯(ランタン)まつり」など、空に因んだまちづくりに取り組んでいます。



02 実施内容

1日目 現地視察 北彩都ガーデン



「第32回全国川サミットin旭川」では総会に先立ち、現地視察を行いました。

旭川駅に直結したまちの中心にあり、全国的に珍しいロケーションのガーデンである「北彩都ガーデン」を見学していただきました。

旭川駅南側地区を拠点とする忠別川では、「旭川駅周辺かわまちづくり計画」が進められており、水とまちをつなぐ人の流れや河川空間に賑わいを創出することを目標に位置付けています。



1日目 全国川サミット連絡協議会総会

次第

- 1.開会
- 2.会長あいさつ
- 3.来賓紹介
- 4.報告
参加状況等について
- 5.議題
(1)報告事項



- (2)協議事項
第1号 第31回全国川サミットin守山 事業報告について
- 第2号 第31回全国川サミットin守山 収支決算について
- 6.その他事項
- 7.閉会



1日目 全国川サミット連絡協議会総会

会長挨拶



旭川市長 今津 寛介

本日は全国各地から多くの皆様に旭川市へお越しいただき心から歓迎を申し上げます。また、日頃から河川環境を保全しつつ、治水・防災・減災に携わる皆様の御努力と御尽力に、併せて感謝を申し上げたいと存じます。

旭川市は「川のまち」と言われており、先ほど皆さんに御見学いただいた北彩都ガーデンのとおり、川を利用し自然と共生をしているまちでございます。

当市は今年市政102年を迎えます。鉄道が開通し、第七師団が移駐するなど、産業・経済の基盤が成立し、道北の要としての使命を担ってきました。大雪山の豊かな伏流水で米が美味しい、お酒も美味しい街であ

り、今日は皆様に存分に御堪能いただければと思っております。

私たちは河川空間をまちづくりに活かすため様々な取り組みをしております。今日は皆様と意見交換をさせていただき、このサミットを通じ全国の皆様と川と共に存するまちづくりについて、思いを共有する2日間にしてまいりたいと思いますので、御協力をお願いを申し上げて開会の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。



1日目 国土交通省 講演

「流域治水と河川環境の取組」



国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課長 小島 優 氏

「流域治水」とは、近年の気候変動によって水災害が激甚化・頻発化している状況を踏まえ、従来の川の中だけではなく、川を含めた流域全体で水害対策を取り組んでいこうという考え方です。従来であれば、堤防を築いたり、上流にダムを作ったり、遊水池を作ったり、川底を浚渫したりなど、できるだけ川の中の水を流せる能力を増やしていくという取り組みを中心にやってきました。それだけでは被害を抑えることができないということで流域全体で洪水を減らしていく、あるいは被害を減らしていくということに、本格的には令和3年から行政だけではなく、地元の方々ともいっしょに取り組んでおります。

流域治水は、数十年に1度起こるような極端に川の流量が増えた時を対象とした政策ですが、それ以外の時、日常の川の365日をどのように捉えていくかということが大事だと思います。生き物の普段の生活に着目すると、川が流れている、田んぼがあり池や沼、山があり、山には木が植えられていて、人と生き物が共生をしています。田んぼには虫がいて、それを餌にする鳥がやってくる。川とその水源が水で繋がりネットワークになっている。その一方で大雨が降った時には田んぼに一時的に水を溜め込むことによって洪水を緩和する機能を持っているということが流域治水の姿であり、高度経済成長期以前の当たり前の自然の姿です。

こうした姿を実現する取り組みを「生態系ネットワーク」と呼んでいます。生態系ネットワークの形成は生物の多様性を保つだけではなく、様々な形で社会的・経済的なメリットも与えてくれます。また、こうした取り組みを進めていくにあたって、シンボルや指標となるような種を選ぶことで共通のゴール・目標ができます。全国ではタンチョウやトキ、コウノトリなどを保全して価値を生み出している事例があります。また、「多自然川づくり」といって、環境に配慮した川づくりを進めておりますが、市民レベルでも小さな規模でもできる活動として「小さな自然再生」という取り組みもありますので参考にしていただきたいです。

最後に川には「恵み」と「災い」の2つの側面がございます。生態系ネットワークなどで川の恵みを最大化させ、流域治水で災いを最小化していくということを、相互に連携させていくことによって、地域価値を高めて持続可能な地域づくりと一緒に進めさせていただければと考えております。





北海道 旭川市 市長 今津 寛介

旭川市は、昔、上川アイヌの方々が川や山で狩猟生活を送っており、アイヌの言葉に由来した地名がたくさんあります。市街地を流れる、1級河川の石狩川、忠別川・美瑛川・牛朱別川も全てアイヌ語に由来しており、昔から川との関わりが非常に深いまちとなっております。

河川空間は日常的に多くの市民が利用しており、先日にはドッグランがオープンしたほか、旭川ハーフマラソン、旭川冬まつり、クロスカントリースキー大会など多くのイベントが行われております。

先ほど御観察いただいた北彩都ガーデンは、旭川駅に直結し、かわとまちが一体となった全国的にも珍しいガーデンであり、面積およそ12ha、花や木等、350種が植栽されております。

また当市は、北海道内の複数の広域基幹サイクリングルートにつながる石狩川流域圏ルート上にあり、サイクルツーリズムに適したまちでございます。当市を起点とするきた北海道ルートは、新たな観光価値を創造するため、ナショナルサイクリングルートへの指定を目指しております。飲料水や農業用水、冬期の流雪溝や消流雪用水導入事業の用水として多岐に活用されております。このように、川は当市にとって市民生活や産業を支える、大切な「資源」となっています。

この大切な「資源」である川を活かしたまちづくりを進めるため、昨年度「旭川駅周辺かわまちづくり計画」を策定いたしました。この計画は、地域資源を活かした水辺の整備や利活用により、観光・環境教育・スポーツ等を通じた賑わいづくりを進め、中心市街地を含む周辺地域の活性化を目指すものでございます。

具体的な取り組み内容につきましては、河川管理者の御協力のもと、親水広場の整備や、営利活動に対する都市・地域再生等利用区域の指定への支援、ラフティングやSUPなどのアクティビティや、新たなイベント・アウトドア利用を促進し、観光振興を図ってまいりたいと考えております。



群馬県 みなかみ町 副町長 茂木 直人 氏

みなかみ町は群馬県の最北端に位置し、利根川源流の町であります。首都圏の水がめとして、利根川流域3,000万人の生命と暮らしを支える使命と責任をもつて、自然環境の保護やネイチャーアクティビティ、生物多様性の保全活動を推進しております。町内を流れる利根川では、その急流を活用したラフティングやキャニオニングなどのウォーターアクティビティが盛んです。「かわとまちづくり」の観点からは、現在、利根川に面している既存の道の駅「みなかみ水紀行館」を拠点とした「かわまちづくり事業」を進めております。これまで、この道の駅と隣接する利根川を分断するように植栽されていた松の木を取り払い、築山を新設し、また、遊歩道や水遊び場の整備、カフェの設置などを進めており、河川空間と道の駅周辺の一体的な整備を行っております。利根川を核として、まちと水辺が融合した空間形成に向けて、地域住民と連携しながら取り組んでいるところです。



滋賀県 守山市 市長 森中 高史 氏

守山市に面する琵琶湖赤野井湾は、かつては魚島と呼ばれるほど豊かな湾でしたが、琵琶湖の汚濁負荷が増え、1960年代後半から水質悪化が問題になりました。こうした中、地元漁協や環境保護団体、自治会とともに市民ひとりひとりが国、県、市と連携し、粘り強く取組を続けた結果、豊かな自然環境の再生が図られ、春先には琵琶湖固有種であるホンモロコの産卵が見られるようになりました。また、野洲川という大きな河川が当市を流れていますが、川は身近な存在で恵みもある一方、危険という側面もあります。最近「怖い」が前面に出てしまつて川で遊ぶ経験がなくなっているという中でフィールドワーク、五感で感じる環境学習を大事にしております。最後に、生きるは食べるということ。残念ながら我々やもっと若い世代は琵琶湖の魚を食べる文化が減ってきており、守るだけではなく活用していくことが守ることにつながると考え、取り組んでいます。



岩手県 一関市 副市長 石川 隆明 氏

一関市は、岩手県の最南端に位置し、県庁所在地の盛岡市と東北最大の都市仙台市のちょうど中間に位置しています。川との関わりでは、中心市街地を流れる一級河川磐井川と東北地方最大の北上川が市街地東側で合流しており、地形的な特徴から水害常襲地になってきた歴史があります。国のかわまちづくり支援制度にも登録され、国の協力もいただきながらハード整備を進めています。これまで事業で整備した内容としては、イベント時に観客席としても利用できる階段や広いスロープ・スケートボード場・カヌーやカヤックなどの乗降も可能な船着場、現在、市街地から遊水地まで回遊できる散策路の整備を進めております。本日の皆様方の川を通じた様々な取り組み事例を大いに参考にさせていただき、今後も「かわ」と「まち」を結ぶ様々な活動を推進してまいりたいと考えております。



兵庫県 加古川市 市長 岡田 康裕 氏

加古川市は、市の名前のとおり県下最大の一級河川「加古川」が流れています。加古川河川敷については、テニスコートやグラウンド、自由広場などのレクリエーション施設を整備し、マラソン、ツーダーマーチ、レガッタなどのスポーツで活用しており、特にマラソンコースであるみなもロードは、市民の皆さんにジョギングや散歩などで日常生活の一部として親しまれています。「かわまちづくり」については、令和4年度に、国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に当市の計画を登録いただくことができました。この計画に基づき、国と市が協力し、護岸や堤防、河川敷公園などのハード整備や、民間事業者による営利活動の実施に向けたソフト事業を計画的に行うことになりました。広大な河川敷の特性を活かすことで、市民の憩いの場、スポーツ・レジャーの場、多くの交流の場として賑わいを創出し、新しい日常空間を作っております。



秋田県 横手市 市長 高橋 大 氏

横手市は、秋田県内陸南部の横手盆地の中央に位置し、西部を南北に流れる雄物川とその支流である成瀬川・皆瀬川そして横手川などの流域にあります。当市は豪雪地帯であり、道路除雪により脇に寄せられた雪や屋根の雪下ろしをした雪などを処理するために、市内各所に流雪溝が設置され、川からポンプアップした水や地下水をくみ上げ、雪をその側溝に流しています。そして、その水をまた利用して川に返すという方式で、排水・排雪の処理をしています。このようになど当市では、河川が地域の安らぎの場、観光資源だけでなく、厳しい冬を乗り越えるため、また、基幹産業である農業を支えるための重要な資源となっており、まちづくりに欠かせない存在となっています。今後も河川がもたらす恵みに感謝し、治水対策もしっかりと進めながら、河川を生かした潤いのあるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。



愛媛県 大洲市 市長 二宮 隆久 氏

大洲市は四国の西北に位置する田園都市です。市内を貫流する清流「肱川」は、古くから市民の生活を支え、親しまれてきました。夏には鵜飼いや花火大会、秋には伝統のいもたきが行われます。また、カヌーやSUPなどの水上アクティビティも盛んです。川沿いには国の重要文化財である臥龍山莊や長浜大橋があり、河口では珍しい自然現象「肱川あらし」を見る事ができます。城下町の面影を残す市中心部では、町家や古民家を改修したホテルや城主体験ができる「大洲キャッスルステイ」など、歴史的建造物の保全と活用に力を入れており、持続可能なまちづくりとして世界的な評価を受けています。また、「肱川かわまちづくり」では、水辺広場の整備や「かわみなど」の復活、カヌー艇庫併設の地域交流センターの建設が進められています。今後は上流や河口エリアにも計画を広げ、肱川の自然と美しい町並みを活用した持続可能なまちづくりを進めてまいります。





北海道 幌加内町 町長 細川 雅弘 氏

幌加内町は旭川市の西40kmに位置している街です。川の水流は石狩川の最上流に位置します。雨竜川は支流ですが香川県に匹敵する広大な水流もございます。この雨竜川の源流にあたります最北の戦前にできました人造湖朱鞠内湖は昭和18年に完成し、絶滅危惧種に指定されている幻の魚イトウが生息しております。生体系ネットワークを守りながら昨年から国直轄でダムの再生事業として治水事業を行っていただいているところでございます。北海道の管理河川もあり、流域治水の観点から国と一緒に北海道の方でも治水を進めていただいているところであり、この事業の推進にあたりまして生態系ネットワークを守りながら治水を進めていただいているところでございます。



北海道 鷹栖町 町長 谷 寿男 氏

鷹栖町は旭川の北隣で面積が約139km²、人口が約6500人の町です。基幹産業は農業でゆめびりか、ななつぼしなどのお米、オオカミの桃というトマトジュースが特産品でございます。石狩川に注ぐオサラッペ川が町の中央に流れしており、子供たちのふるさと共育として水質調査を小学校高学年の児童達が平成7年から約30年間行っている歴史がございます。河川の水質調査や生物の観察調査などは、河川事務所や民間事業者の方にも協力をいただいております。水質が良くなつたことでヤマメ、サクラマスが見受けられるようになり、川の生き物も変化してきている状況でございます。子供たちの生物観察等が評価され、昨年の9月には道新の「まなぶん」という子供新聞に紹介されております。今はサケの稚魚を育てており、3月には川への放流を行う予定です。豊かな自然について、自分たちで考え守る活動をできることに非常に私たちも嬉しく思っております。



北海道 深川市 市長 田中 昌幸 氏

深川市は、北海道のほぼ中央に位置する穏やかな田園都市です。当市は、一級河川である石狩川をはじめとした多くの河川を有しています。川を活用した事業として、市内小学校によるサケの放流事業や児童が川に入って浮いてみるとといった体験事業を実施するなど、幼少期から川に触れる機会を設けております。特に、基幹産業である農業には必要不可欠なものであり、石狩川から引いた大正用水は、北海道において第2位の収穫量を誇る良食味米の生産に活用されています。また、石狩川河川敷にはパークゴルフ場を整備しているほか、北海道内においても有数の花火大会を開催するなど市民が集う場所となっており、毎年、市民ボランティアによりクリーンアップ作戦と称する清掃活動が展開されております。深川市は、これからも様々な形で川を活用し、まちの魅力づくりに繋げていきたいと思います。



北海道 上川町 町長 西木 光英 氏

上川町は、北海道が誇る一級河川・石狩川のみならず、大雪山の玄関口に位置する人口3,100人ほどの小さなまちでございます。町内における河川利用に関しましては、総発電量8.8万キロワット相当の水力発電事業が行われているほか、層雲峠氷瀑まつり会場の整備にあたり、石狩川から汲み上げる澄んだきれいな水を霧状に吹きかけて、大氷像の制作を行っております。河川の利用に関して本町が担うべき役割として具体的な活動としては、「石狩川クリーンアップ作戦」と題した清掃活動を、旭川市を中心とする連携中枢都市圏の取り組みに位置付けて、毎年8月に実施しているほか、町内小中学校におけるゼロカーボン実現をめざす環境学習の推進、豊かな自然環境を保全する取り組みと並行して実施する小水力発電の導入など、再生可能エネルギーの利用促進にも積極的に取り組んでまいります。引き続き、近隣市町と連携しながら、美しい河川環境の保全に取り組んでまいります。



北海道 沼田町 町長 横山 茂 氏

沼田町は、北海道石狩平野の北端に位置し石狩川に繋がる1級河川の「雨竜川」などの河川により、肥沃な大地を形成し南部に広がる平坦地の水田から良質な農作物の恵みにより、基幹産業の農業を支えていただいている自治体で「かわ」はまちづくりに欠かせないものです。農業での恩恵のほかに、雨竜川の河川空間では、散策路のあるさくら並木散策公園や町民パークゴルフ場として占用させていただき、町民の余暇や健康の増進に欠かせない場所として利用を進め、河川のもつ機能の理解を深めながら、自然保護に対する意識の高揚にも努めております。これからのかわとまちづくりについては、昨年オープンした「そらち自然学校」で、当町の自然の恵みを活かしながら体験する、各種アクティビティの提供も進め、新たなアイテムとして川での利用も充実し、今後も我が町の関係人口創出拡大にとって、大きな役割を担っていただくものと考えております。



北海道 当麻町 町長 村椿 哲朗 氏

当麻町は、上川管内のほぼ中央、北海道の屋根と言われる大雪山連峰の麓に位置しており、北側を石狩川、中央を広大な町有林に源を発する牛朱別川、当麻川が流れています。当町は、命の尊さを知る「食育」、命の強さと温もりを感じる「木育」、命の優しさに触れる「花育」の3育からつながる「心育」をテーマにまちづくりを行っております。「食育」事業では、町が所有する総面積1.9ヘクタールの圃場を食育拠点である「田んぼの学校」と称して整備し、町内の小中学生は給食で食べるお米を自ら育てております。「木育」事業では、北海道の厳しい自然環境の中で生きる樹木の命や樹木の暖かさを感じることができます。「花育」事業では、暖かな季節を迎えると町内団体が花壇を整備し、美しい花で町内を彩ります。当麻町は以上の3育を実践し、自然の命から豊な心を育みます。今後も自然の命を感じながら、持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。



北海道 比布町 町長 村中 一徳 氏

比布町には石狩川や比布川、蘭留川など大小多くの川があります。特に、石狩川は北海道を代表する河川であり生活用水として、また、農業用水として大切な河川であり、石狩川があるからこそ、この地域の発展があったと言っても過言ではないと思います。当町の学校の校歌にも、「石狩川を思いつつ」という歌詞があり地域のシンボルとして、また、地域の大切な資源として位置づけられているところでございます。また、町内の比布川上流には、平成10年に温浴施設やキャンプ場などを整備し、多くの家族連れなどに訪れていただいている、釣りなどを楽しみながら、水に親しみ、自然に触れることができる貴重なエリアとなっております。しかし、近年の降雨による災害は、これまでとは違う規模になってきておりますので、安全対策を講じつつ、豊かな自然を生かしたまちづくりを今後とも進めてまいりたいと思っております。



北海道 北竜町 町長 佐々木 康宏 氏

北竜町は日本一のひまわりの里があります。北竜町の農業は美しい水田を形成する農村地帯であります。美しい水田は豊かな正常な水を必要といたします。当町には、開発局の河川、雨竜川、北海道河川が10河川そして町の河川が17河川あります。農業用水として河川を通じて水田に活用されております。お米はひまわり米と安全な食料を生産しております。その評価を受けて日本農業大賞を受賞いたしました。厳しい審査基準から清涼豊かな川を要している部分が大きな評価をいただき、農業を支える川の役割は本当に大きいと思っています。次に平成12年度から「川はともだちわんぱく夏祭り」と子供たちが稚魚放流や魚と水中昆虫観察会川の遊び方などを開催しております。川が食料を支えていることで子供たちの将来をしっかりと育てていると思っています。今日のサミットが地域創生のアイデアとなることを願っております。



北海道 東神楽町 町長 山本 進 氏

東神楽町は、忠別川の上流に位置し、河川の恵みを多く受けている町です。忠別川沿いには、治水・環境整備の一環として整備したサイクリングロードがあります。これにより、東神楽町から旭川駅まで信号を1本も通らずに走り続けることができます。また、魚道が整備されたことで、サケをはじめとするさまざまな魚が遡上するようになりました。釣りを楽しむ人も増えており、住宅街のすぐ近くで釣りができる環境は珍しいため、河川の恵みを身近に感じられます。

農業の面では、忠別ダムが大きな役割を果たしており、ダムの水を活用することで水温が上昇し、お米の収量が増加しました。同時に、国営緊急農地再編整備事業が進められており、田んぼダムのような形で流域治水にも取り組んでいます。このように、河川の恵みをさまざまな形で活かしており、地域の暮らしに役立てています。こうした取り組みが全国にも広がることを願っています。



北海道 歌志内市 市長 柴田 一孔 氏

歌志内市は現在792市ある中で1番人口の少ない市となっています。明治24年から石炭を今現在まで掘り続けておりますがカーボンニュートラルということで2026年の12月を持って石炭は残らなかったという状況です。また再生可能エネルギーの可能性を秘めている土地柄で、それを利用できないか進めているところです。当市は2本の北海道河川がございます。いずれも隣町の砂川市を経由しております。2本のうち1本は市内を循環する河川で急峻な街となっており雨が降れば一気に川が流れ石狩川に注ぎます。この河川改修を令和4年から令和33年まで約100億円をかけて進めているところです。また河川の街づくりということで毎年ヤマメを約4000匹放流して、9月には山釣りをしながら子供たちが河川に対し親しみを深く持つてもらう行事を行っています。



北海道 滝川市 市長 前田 康吉 氏

滝川市は、北海道のほぼ中央部、札幌市と旭川の中間に位置し、石狩川と空知川の合流部に位置しています。その両河川の河川敷には様々な運動施設を配置し、多くの地域住民に利用されております。川の恵みによって肥沃な大地と豊かな自然に恵まれた地域として、石狩川支川の江部乙川流域では、道内で唯一、稻の種子の増殖に必要な「原原種」を生産しており、北海道の水稻の重要な地域でもあります。川と共に生きるために、流域全体で取り組む治水対策が極めて重要であり、国・地方自治体・地域住民などが連携し、ハード・ソフト対策を充実させるとともに、本日開催の川サミットなどを通じて、各自治体間での情報共有や取組を参考にしながら、より安全で安心な暮らしを確保するため、一丸となつて取り組めることを期待しております。



北海道 浦臼町 町長 川畑 智昭 氏

浦臼町は旭川市から南西に約70km、空知地方のほぼ中心に位置する稲作主体の農業の町になります。上川地方と並び私たちの空知地方においても、石狩川とその水系の恵みによって開拓が進み、農業を初めとする産業を発展させてきた町の一つになります。水稻主体の当町にとって石狩川水系の豊かな水資源は「川と共に生きる」を実践してきた歴史そのものといえます。つい先月上旬になりますが、町内5カ所の三日月湖を自転車で巡りながら、当町の歴史とぼたんそばなどの食を楽しむ「アドベンチャーツーリズム」が、地域おこし協力隊員の主催で行われました。札幌圏からも参加いただき、高い評価をいただいたと報告を受けています。開発が進んでいない、自然のままというキーワードが価値を持つ時代です。まだ手を付けたばかりですが、自然資源、歴史資源として活用し、まちづくりに活かしていくことを考えています。



北海道 美瑛町 町長 角和 浩幸 氏

美瑛町は旭川から南へ車で3、40分のところに位置しております。農業と観光の町であり年間観光客入り込み数200万人を超える観光で賑わっております。ここ数年観光の流れが変わり丘の町から水の町に変わりつつあり、美瑛川・青い池は観光の面からはもちろん、防災の面からも大きな柱の存在です。まず美瑛川の活用についてはサイクリングロードを整備し、市街地から青い池、その後の白金温泉まで多くの観光客や町民の憩い場となっています。一方で防災の観点から上流部にある十勝岳が噴火した時の泥流を止める防災や防災教育に青い池を活用しております。また、昨年青い池やその周辺地域をインフラツーリズムのモデル地区としてご指定をいただいたところで新しい観光ツアーの形などを模索しております。ジオの教育、観光を結びつけた河川と共に存した街づくりを今後とも続けて参りたいと思います。



北海道 月形町 町長 上坂 隆一 氏

月形町は石狩川下流地域に位置し、樺戸連山の麓の石狩平野で豊かな田園風景が広がる町です。本町には石狩川の河道改修の際にできた、三日月湖を活用した親水公園「皆楽公園」があり、週末には釣りやキャンプを楽しむ人が訪れるレジャースポットとなっています。この皆楽公園エリアには、日帰り入浴が可能な温泉施設と、併設された宿泊施設がありますが、どちらも建設や改修から20年以上が経過し、経年劣化が激しいことから、改修工事を行い9月1日に道の駅としてリニューアルオープンを行いました。この町民にも親しみのある皆楽公園エリアでの、保養センターの改修と道の駅の開業が、町の活性化に大いにつながるものと確信をしています。これからも、皆楽公園を中心とした観光振興に対し、関係各所の皆様からのご協力をお願いしたいと思います。



北海道 砂川市 市長 飯澤 明彦 氏

砂川市は、札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、自然を生かしながら家族で楽しめる都市公園「北海道子どもの国」や多彩なウォーターレジャーが楽しめる石狩川の洪水調整機能を兼ね備えた遊水地「砂川オアシスパーク」を有する水と緑に包まれた自然豊かなまちであります。砂川オアシスパークは、平成30年3月に「砂川地区かわまちづくり」計画が登録されたほか、令和2年11月には「都市・地域再生等利用区域」に指定され、多目的広場や駐車場、親水護岸、渚ポート(カヌー等の船着き場)など整備が進み、令和5年度で池の周りを周遊できる管理用道路の整備も終わり、水面寄りを周遊できる1周約4キロメートルの内回りコースの整備事業が完了したところでございます。これからも、地域住民の安心・安全を守るため、地域の防災機能を強化していくことに尽力してまいりたいと思います。



北海道 美唄市 市長 桜井 恒 氏

美唄市は旭川市と札幌市の中心部に位置しております。市内中心部から東側と西側でそれぞれ異なる特徴を持っており、西側の地域は石狩川流域の湿地帯です。石狩川の流れが変わることによってできた三日月湖があります。当市と川の関わりは石狩川主流における洪水との関わりです。昭和36年、昭和56年に大きな水害があり、現在においても石狩川主流における築堤の強化並びに治水対策を行っております。宮島沼があり世界でも有数のマガツチという渡り鳥の休息地となっておりますことから、2002年にラムサール条約へ登録しております。マガツチのみならず多くの水鳥が生息しており、生物多様性を象徴する存在となっており多くの来訪者が訪れる貴重な観光資源となっております。しかしながら、水位低下や水質悪化など問題が生じ、貴重な生態系の保全や失われた水環境の再生を目指しておりますが、自治体では解決することが難しい問題であり関係各所の皆様に解決へ向けた取り組についてご協力をお願いいたします。





北海道 南富良野町 町長 高橋 秀樹 氏

南富良野町は富良野市の南に隣接をしております。古くから農業と林業が基幹産業の町で今現在は人口が福祉、観光関係の方々の割合が高くなっています。街の中に石狩川水系最大の主流、空知川がございます。空知川を途中でせき止めた金山ダム、その中に人造湖金山湖があります。人口は2300人という小さい町ですが、夏はラフティング、カヌーといった水のアクティビティでにぎわいを見せております。高倉健さんの映画ぽっぽやの舞台と覚えていただかとありがとうございます。平成28年に豪雨災害があり昨年、復興・防災機能の強化としてMIZBEステーションや河川空間を活用したかわまちづくり計画にも登録していただきました。川の怖さも十分経験をしましたが水の恵みをなんとか最大に活かしてまちづくりに活かそうと頑張っている町です。



北海道 富良野市 市長 北 猛俊 氏

北海道の中心標のある町富良野市です。へそとスキーとワインの町です。富良野市は石狩水系の一つ空知川が富良野盆地の中心を流れおり生活にとって欠かせない資源を提供していただいております。豊かな川がある一方で、近年の気候変動による影響により環境が大きく変化しようとしているところなのかもしれません。持続可能な利用と保全に向けて水質の維持、管理を目指した取り組みを地域の企業や住民と協力して進めております。ゴミの14種分別リサイクルに取り組むなど自然環境、生体系の保全を図りながら癒しの場としての市民健康増進にも活用されているところでございます。こういった状況ですが洪水などの水害対策も重要な課題となっております。河川管理者と連携協力し最新の技術を活用して地域の安全安心確保に努めていくところでもございます。対策と課題を通して今後も地域の皆様と共に自然と豊かな水質資源を次代に引き継いでいくための取組に努めてまいります。



北海道 岩見沢市 副市長 佐藤 匡之 氏

岩見沢市は、北海道の中央南西部、空知地方に位置するまちで、札幌市や千歳市から約40キロの距離にあり、豊かな自然環境に恵まれたまちです。当市の市街地を流れる「利根別川」や「幾春別川」の貴重な水辺空間を活かし、市民団体等と連携して「千本桜並木道」の整備や、「クリーングリーン作戦」と銘打った河川清掃活動、「サケの稚魚放流」事業などを実施しています。また、石狩川下流域の治水対策として「北村遊水地」の整備が進められています。北村遊水地は、洪水被害の軽減という役割に加えて、自然との調和を重視した「自然共生型」の設計が施され、地域の生物多様性の保全への貢献のほか、周辺には自然公園や散策路が整備されており、地域住民が楽しめる場としても期待されているところです。



北海道 新篠津村 村長 石塚 隆氏

新篠津村は、石狩平野の西部、札幌市から北東へ約35kmに位置しています。村の東側には石狩川が流れおり、観光資源としても重要な役割を担っています。河川敷にはゴルフ場、打ちっぱなしゴルフ練習場などを整備しました。また、旧河川である「しのつ湖」では、夏には魚釣りやカヌーなどの海洋性スポーツ、冬にはワカサギ釣りを楽しむことができ、しのつ湖に隣接する「しのつ公園」にはキャンプ場を整備し、村内外から多くの人が自然の中で楽しむことができる場所となっています。これらの施設は、家族や友人と過ごす大切な時間を提供し、地域のコミュニティをより一層強化する役割を果たしています。最後に、河川は私たちの生活にとって重要な生態系の一部でもあります。河川に関する行事を通じて、私たちの地域の歴史や文化、そして自然環境の大切さを再認識し、共に楽しむことができる機会を大切にしていきたいと思います。

1日目 歓迎交流会

歓迎交流会には全国各地からお集まりいただいた90名の方に御参加いただきました。また、道内16酒蔵の地酒を振る舞わせていただき、どれも大変御好評いただきました。



2日目 全国川サミットin旭川

プログラム

令和6年10月19日 OMO7旭川by星野リゾート

開会式

・オープニングムービー上映・主催者挨拶・来賓挨拶

事例発表

1.北海道教育大学附属旭川小学校 4年生
『川のまち旭川調査隊』



4年1組

4年2組

2.北海道教育大学附属旭川小学校 小原 広士 氏
『「川と共に生きるまちづくり」を位置づけた学びの成果と課題』

3.旭川駅周辺かわまちづくり計画推進WG
『旭川におけるかわまちづくりの取組』



ミズベリング旭川代表
佐藤 勉 氏

記念講演

1.環境省 北海道地方環境事務所
『自然を生かした地域づくりへ～ネイチャーポジティブという考え方～』



釧路自然環境事務所長
岡野 隆宏 氏

2.国土交通省 北海道開発局 建設部
『第9期北海道総合開発計画と北海道の流域治水』



河川計画課長
空閑 健 氏

サミット式典



2日目 開会式

主催者挨拶



旭川市長 今津 寛介

皆様おはようございます。第32回を数えます全国川サミットin旭川を、大小の多くの河川を持つ旭川市で開催できますことに本当に嬉しく、そして心から感謝を申し上げる次第でございます。

昨日は全国28の首長の皆さんに御出席いただき、小島河川環境課長に流域治水や生態系ネットワークについての御講演をいただいて、私どもが進める各都市の川を利用したまちづくりや歴史等について意見交換をさせていただきました。

私たちは川を活かし、また川に活かされて生活しており、今回このサミットのテーマを「川と共に生きる～かわとまちづくり～」とさせていただきました。このサミットを通じまして皆様と学び考え、川と共存するまちづくりについて共有をして参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げて開催にあたりましての挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶



北海道副知事 浦本 元人 氏

鈴木知事にご案内をいただきましたが、出席叶いませんでしたので、知事から預ってまいりましたメッセージを代読させていただきます。

第32回全国川サミットin旭川が多くの方々のご参加のもと、平成5年の鶴川町以来31年ぶりに北海道で開催されますことにお祝いを申し上げますとともに、全国各地からお越しの皆様へ心からご歓迎申し上げます。

ここ旭川は北海道を代表する河川である石狩川とその多くの支流がもたらす豊かな水資源を生かして、有数の穀倉地帯として我が国の食を支え、また石狩川にかかる旭橋は北海道遺産に選定され、町のシンボルとして市民の皆様に親しまれるなど川が人々の暮らしの身近にあり、川と共に発展してきた町であります。川のまち旭川市は、川とまちが一体となった賑わいの創出や自然との共生について議論される本サミットの開催地として、ふさわしい場所だと思います。

本サミットを通じて得られた知見や共有された情報などが、全国各地における様々な川と共存するまちづくりの取り組みに生かされることをご期待申し上げます。



2日目 事例発表1

「川のまち旭川調査隊」



北海道教育大学附属旭川小学校 4年生

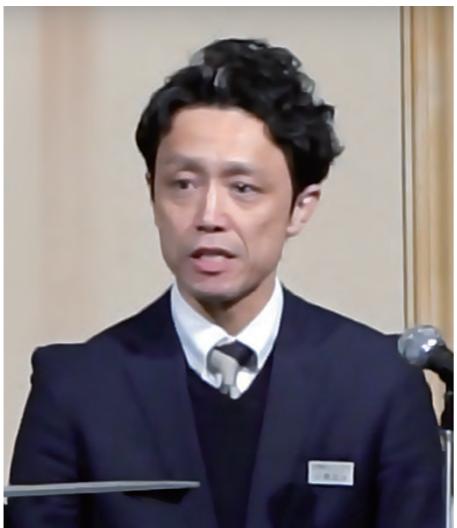
4年1組と2組の児童は、「川のまち旭川調査隊」として川の魅力や生物などを取り巻く環境、歴史や治水について学習しました。街頭インタビューをして、旭川市の魅力を聞き取ったこと、水質や水生生物調査、施設見学等を通じて感じたことや考えたこと、川を守り活かすことや川の魅力を伝えることについて発信しました。



Youtubeにて
発表の内容を
限定公開しています。

2日目 事例発表2

「『川と共に生きるまちづくり』を位置づけた学びの成果と課題」



北海道教育大学附属旭川小学校 小原 広士 氏

附属旭川小学校の総合的な学習の時間について御説明します。本校の総合的な学習の時間で目指す子供像は、「旭川市への愛着と誇りを持ちながら、目まぐるしく変化する時代の中でも、未来に希望を抱き、自分の人生と社会をよりよいものにしていこうとする子供」です。ここで言う愛着とは「自分が住んでいるまち、旭川市が大好き」「ふるさとである旭川市の発展のために自分が出来ることをしたい」という思いです。また、誇りとは「旭川市で学んで良かった」「旭川市での学びを通じてどこで暮らしても自信を持って生きていける」という心持ちを意味します。このような思いを持って子供達が過ごすことで、地域社会に貢献しながら未来に向かってたくましく生き抜く力を備えた人材を育てていきたいと考えています。

そのため、3、4年生では旭川市のまちの良さに気付き、相手や目的に応じて表現できる子供の育成を目指します。5、6年生では、旭川市の課題解決や活性化に向けた活動が出来る子供の育成を目指します。このように、各学年での学びを積み重ねながら、子供達が地域への理解を深めることで、旭川市への発展に貢献しようとする意識を育んでいきます。本校の4年生が発表した旭川市の川を学習材とした単元「川のまち旭川調査隊」は令和元年に開発したものです。この単元を検証した結果、3、4年生で目指している「旭川市のまちの良さに気付き相手や目的に応じて表現できる子供」の育成に有効であることが確認されました。

旭川市はここ数年で河川空間の自然環境保全、都市部と河川が一体となったレクリエーション空間の整備、水辺とまちづくりを連携させた計画に取り組んでいます。このように、旭川市は環境保全・安全対策・防災・まちづくりなど様々な分野で河川と密接な関わりを持っています。したがって、旭川市の河川は子供達が探究活動を通じて環境・歴史・防災・まちづくりなど、多様な視点から知識を得られる非常に有意義な学習材と言えます。この学習材を学習協力者の指導や助言をいただきながら、探究する総合的な学習の単元が旭川市の多くの学校で実践されることによって、地域の自然や歴史への理解も深まり、地域社会に貢献したいという子供達の意識が育まれることが期待されます。さらに川の学習を通じて地域との連携が強まることで、子供達に持続可能なまちづくりの担い手としての自覚が芽生え、地域の未来を支える人材が育っていくと考えます。

本校の旭川市の川を学習材とした総合的な学習の時間の取り組みが今後、旭川市の多くの学校に広がり、旭川市の子供達が地域への愛着と誇りを持つとともに、変化する時代の中で自分の未来を切り拓いていく力を身に付けていくことを願っております。



Youtubeにて
発表の内容を
限定公開しています。

「旭川におけるかわまちづくりの取組」



ミズベリング旭川代表 佐藤 勉 氏

私はいかに川で楽しく遊ぶか、川の豊かさを使っていかに人間性豊かな人材を育んでいくか、という取り組みを行っています。今日は旭川におけるかわまちづくりの取り組みについてお話をさせていただきます。

現在、忠別川ではカヌーやサップなどを推進しております。川を取り巻く賑わいとして様々な人たちが忠別川に関わっております。「大雪と石狩の自然を守る会」では鮭の稚魚を学校などにお願いして育てていたり、科学館サイパルでは見学会や動植物の研究や散策などを子ども達に教えております。また、旭川サイクリング協会では、今年7月に河川敷、堤防を使った100kmサイクリングを開催し、とても好評だった聞いております。さらに、旭川公園緑地協会では様々なイベントをやっており、親水体験イベン

トを実施しており、こちらではカヌーや降雨車の体験、水防、水生生物なども学習できるようになっております。ミズベリング旭川では毎年7月7日に全国で川辺を見ながら乾杯しようという社会実験を行っております。

続きましてかわまちづくりの取組がどういった経緯で始まったのかということをお話します。旭川は川のまちであり、橋からカヌーやラフティングボートの方に手を振ると振り返してくれるような景色ってすごくいいよね。ということから有志が集まって始まりました。河川空間のオープン化ということでアメリカネバタ州リノ川の資料で勉強したり新潟の信濃川に視察に行き、現在旭川市ではどういうことができるかということを我々委員も知恵を出していくたいと考えております。

最後に課題として、整備が計画どおり進まない原因として河川管理者との連携不足や市町村の予算不足。また、利用者が増加していない原因としてキーパーソン不足や情報発信が不足しているといったことが考えられます。あとは維持管理の問題があり、そこは基金を創設してその基金でまかなっていくような仕組みはどうかと考えております。それと後継者の育成です。先ほどの大雪と石狩の自然を守る会や旭川サイクリング協会は高齢化しており、そこは地域おこし協力隊のような仕組みを使って市町村で育ててもらって、事業者として参画してもらうような仕組みが必要かなと思います。それとコマーシャルです。これが1番問題で多様なメディアがある中でどのメディアに出せば1番効果的かというところが重要です。そのような課題をかわまちづくりで解決して成果として新たな観光資源、多様な川教育、環境との調和、新たな事業者の発掘、そして旭川の魅力発信につなげていきたいと思います。



Youtubeにて
発表の内容を
限定公開しています。

「自然を生かした地域づくりへ～ネイチャーポジティブという考え方～」



釧路自然環境事務所長 岡野 隆宏 氏

私は国立公園の管理や野生生物の保護を担当しております。私自身が自然を楽しめていたい、恩返したいということからこの仕事をさせていただいております。本日は「生物多様性」「ネイチャーポジティブ」「30by30」「自然共生サイト」といった4つのキーワードをご紹介したいと考えております。

「生物多様性」とは、生き物がいてそれぞれ繋がりあり、それぞれ違いがあることです。これにより、食べ物、風景、文化といった恵みが生まれ、私たちの暮らしや経済活動はその恵みに支えられています。地域によって生き物が違うと、その恵みにも違いが生まれ、それが地域の個性になっています。しかし、日本の生物多様性は損失が続いている。その理由としては、人間活動による開発、地方に人が少くなり自然に手入れがされないこと、外来種の侵入、気候変動の影響があげられます。生物多様性が損失し、その恵みが失われれば、社会経済にも影響がでます。企業や金融機関はこれを経営上のリスクと捉え始めています。一次産業が強い北海道でも重要な課題として認識していただきたいと思います。

このため世界は、生物多様性の損失を止め、回復させることを目標と定めました。これを「ネイチャーポジティブ」といます。そのための1つの取組が「30by30」で、2030年までに陸と海の30%以上を保全するというものです。30%の地域を保全していくければ生き物たちが守れる。そうすると自然から得られる恵みも守られるというデータに基づくものです。国立公園のように法律で保護している場所に限らず、身近な里山や水源の森、都市の自然、河川といった場所も保全には重要だとされており、地域の方々や企業の方々が守っていく取り組みが始まっています。そういった場所を環境省が認定しているのが「自然共生サイト」で、2024年10月現在で全国253箇所あります。今年、環境省・農林水産省・国土交通省の共管で「地域における生物多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」ができました。地域で保全する活動を認定し、サポートしていく法律ですので、企業の皆さんに関心を持っていただきたいです。

北海道のネイチャーポジティブのシンボルと考えられるシマフクロウについてご紹介します。かつてシマフクロウは北海道全域に生息していましたが、一時は道東の70羽程度まで減少してしまいました。その原因是、巣となる洞ができるような大木がなくなったこと、主に餌となる魚が減ったこと、人の軋轢があげられます。環境省では様々な方と連携してシマフクロウを増やす取組を進めていますが、今後は、市民手作りの魚道による川の再生、植樹による森の再生などの活動が重要となってきます。これは、災害の防止や漁業資源の回復などさまざま恵みを与えてくれる豊かな森と川と海の再生にほかなりません。

繰り返しになりますが生物多様性は社会経済の基盤であり、地域づくり重要な資源です。それを活かし、地域の個性の見直し、エネルギーや食の地産地消に取り組むことで地域は元気になります。旭川ではかわまちづくりでいろんな方が連携されています。みんながつながって活動し、自然を回復させ、豊かな地域になった時に、シマフクロウも飛んで来てくれるかもしれません。ネイチャーポジティブで地域をポジティブに。そういう取り組みを進めていくとありがたいなと思っております。



Youtubeにて
発表の内容を
限定公開しています。

「第9期北海道総合開発計画と北海道の流域治水」



河川計画課長 空閑 健 氏

北海道の価値や魅力を生かした川づくりについてお話をさせて頂きます。

今年3月に閣議決定された「第9期北海道総合開発計画」では、食料安全保障や脱炭素へのシフトなどの現在の我が国の抱える課題を解決するため、食や観光・再生可能エネルギーのポテンシャルといった北海道の価値を最大化させるとともに、そういう北海道の価値を生み出す地方部の「生産空間」に、人が住み続けられ、生業を営むことのできる環境を維持していくことを目標としています。

近年、自然災害が頻発化・激甚化しており、今年も全国各地で自然災害が発生しています。北海道においては、平成28年に連続して4つの台風に襲われ、食料供給の要である生産空間が被災し、農産品の著しい品薄、価格の高騰等

その影響は全国に及びました。今後、気候変動の影響により降水量が増大し、緯度の高い北海道は全国で最もその影響が大きいと予測されています。自然災害から生産空間を守ることは、北海道の価値を最大限発揮させ、生産空間に安全・安心に住み続けられる最も重要な要素です。

これを踏まえ、北海道内では、北海道の価値や魅力を活かしつつ、流域のあらゆる関係者による「流域治水」の取組が行われています。

我々河川管理者が行う河川やダム・遊水地等の整備、さらには、土砂災害対策や流木対策のほか、農地を活用した田んぼダムの取組や河川事業と連携した農地の嵩上げによる生産性の向上や浸水対策、まちづくりと連携した避難場所や避難路の整備、地域産業の拠点となる食品加工場による浸水対策など、流域の様々な関係者により治水対策が行われています。

また、北海道の地域特性を活かし、自然の保水・遊水機能を有する釧路湿原等の湿地の保全のほか、千歳川に治水対策として整備した舞鶴遊水地においてこの地域で100年以上ぶりとなるタンチョウの繁殖が確認されるなど、グリーンインフラの取組も進められており、これらの地域では、民間ツアーや地域ブランドとしての商品開発等、地域振興にもつながっています。さらには、こうした自然環境の保全・再生の取組を生態系ネットワークとして流域に展開する、また、北海道の強みである観光を川で展開しようという「かわたびほっかいどう」の取組なども行っています。

第9期北海道総合開発計画では、「共創」を中心的なメッセージに掲げています。地域の安全・安心とともに、豊かな自然環境、さらには、地域の振興や活性化、そういう北海道の未来を共にみんなで創っていかなければと思っています。



Youtubeにて
発表の内容を
限定公開しています。

第32回全国川サミットin旭川 共同宣言

石狩川は、その源を北海道の屋根大雪山系に発し、水田地帯の広がる上川盆地へ入り、支川を合わせながら旭川市街部を貫流し、石狩平野を流下して日本海に注いでおり、その恵みは、北海道の開拓を支え、今なお、水辺空間の活用により新たな価値を与え続けてくれる母なる川です。

「第32回全国川サミットin旭川」は、市街地に石狩川水系を抱く自然豊かな北北海道の拠点都市である旭川市を会場として「川と共に生きる～かわとまちづくり～」をテーマに開催しました。今も昔も、流域に住む人々に恵みをもたらし続ける川の大切さを再認識するとともに、「かわ」と「まち」が一体となり、お互いに活かしながら深化しつづけることを誓い、ここに宣言します。

○わたしたちは、先人が築いた、恵みをもたらす川の歴史や文化を守り、次世代へ引き継いでいきます。

○わたしたちは、災害から命や大切なものを守るために、防災・減災への意識を高め、災害に強いまちづくりに取り組みます。

○わたしたちは、川とのふれあいを通して、ひとりひとりが川に興味を持ち、大切にすることで、川を愛する豊かな心を育みます。

○わたしたちは、川と共生した美しいまちなみと、多種多様な生き物が生息する豊かな自然環境の保全に努めます。

○わたしたちは、人と人のつながりを大切にし、自治体の境を越えて、川に関わる交流の輪を広げます。

令和6年10月19日
第32回全国川サミットin旭川 参加者一同

